

みんなとともに笑顔いっぱい — 「学びあい」「認めあい」「高めあい」 —



みんなとともに



ここ数年は、すでに熱中症の心配をしていた時期ですが、今年はまだそれほどでもないようです。本校では「環境省 熱中症予防情報サイト」にある「暑さ指数 (WBGT)」を参考指標として、屋外活動の制限を行っています。また、水泳指導にあたっては、「気温・水温」を計測し、実施の可否を判断しています。これから暑くなりますが、こまめな水分補給を行い、熱中症の予防に努めていきます。



「福島型オンライン授業」について

5月22日(土)に「タブレット端末 (ipad)」を家に持ち帰りましたが、子どもたちはどのような使い方をしていたでしょうか。当初の3年計画を前倒して、昨年度中に「1人1台」のタブレット端末の整備が実現しました。「今後どのように有効に活用するか」が喫緊の課題となっています。

【福島型オンライン授業】

タブレット端末を活用して、インターネットを介して教師と生徒がつながり、Society5.0を豊かに生き抜き、世界に羽ばたくふくしまの未来を担う人材の育成を目指した授業

◇「福島型オンライン授業」の具体的な姿 - 福島市教育委員会「福島型オンライン授業の手引き」 -

「一斉学習」では

画像や動画等の提示により興味・関心を高め、学習内容への意欲をもつ。

「個別学習」では

インターネットでの調べ学習や表現ツールなどとして活用することで思考を深める。

「協働学習」では

全ての児童の考えを電子黒板に提示し、様々な考えをもとに話し合うことで、思考力・表現力を高める。

「遠隔学習」では

病気療養中の児童や校外(学校・専門家)との通信により時間や距離の制約を取り払う学習を行う。

「緊急時における家庭学習支援」では

インターネットを介した課題の配布・回収や個人制作・協働制作、授業録画配信(オンデマンド型)を中心に、ライブ授業配信同時双方向型)、ウェブ会議システムを使ったディスカッションなどにより、児童の家庭学習を支援する。



〈こんなふうになるといいなあ〉 ※ 校長が頭の中で考えていることです。まだまだこれからです。

- ・ 使うときに充電保管庫から出すのではなく、朝教室に入ったらまずタブレット端末を自分で持ってきて机に入れる。調べたいことができれば、すぐに取り出してネットで調べる。また、話し合いの場では、個々の考えが映し出されている。(道具として「常時」活用できる状態になっている)
- ・ 新型コロナウイルス感染に伴う臨時休業や出席停止の際も、学校と家庭がネットでつなぐれ、双方向型のオンライン授業が成り立っている。また(病気ではなく)事情があって休んだ場合、ネットを通して学級の様子を見ることが出来る。(学校と子どもが「常時」つながる状態になっている)

【校長のつぶやき】 その72 「松の剪定 その2」

昨年度の「学校だより」の「校長のつぶやき その32」で「松の剪定」について触れた。「今年はやったのですか?」と先日保護者の方に質問された。その答えは「今年もやりました!」 昨年は脚立が倒れ枝にぶら下がるという失敗があったが、今回は学びを生かして慎重に作業を進めた。2本は終わったのだが、実は、まだ作業をしていない松が1本ある。それは、てっぺんに鳥の巣がありヒナがいるからである。時折親鳥も見え隠れしている。ということで、ヒナが巣立つまで、作業は中断である。

【校長のつぶやき】 その73 「あの鳴き声は!？」

これまたヒナの話である。今から3年前、地域の方に教えていただいたのだが、体育館西側の木で「ササゴイ」という珍しい鳥がヒナを育てているという。その方が撮った親鳥の写真をいただいたので、校長室に飾ってある。先日校庭に出ているときのことである。「クワァ」というような珍しい鳴き声を聞いた。そしてピンときた。「ササゴイ」の鳴き声だ。おそらくまたヒナを育てているのであろう。以前は親鳥を体育館の屋根の上で見かけたこともある。7月ごろには巣立つようだが、ヒナが1羽間に育つことを心から願っている。